

特集「マルチメディア，分散，協調とモバイル (DICOMO2004)」の編集にあたって

小 泉 寿 男[†]

情報技術の進歩が情報化社会の発展の大きな要因となり、逆に情報化社会が新しいニーズとなって創造的なシーズを生み出してきた。両者のこのような関係は、近年、いろんな面で顕著であり、シーズとニーズの相乗はこれから新しいインフラを創出し、そのうえで新しい技術と応用が醸成していくと思われる。

DICOMO は、マルチメディア，分散，協調とモバイルの 4 つをキーワードとしてワークショップを開催し、本学会の研究会がお互いに情報を交換し、研究課題や研究成果を発表しあって、そのつながりを広め深めてきた。

DICOMO は、平成 9 年に「マルチメディア通信と分散処理研究会」、「グループウェア研究会（平成 13 年度から「グループウェアとネットワークサービス研究会」に名称変更）」と「モバイルコンピューティング研究会（平成 12 年度から「モバイルコンピューティングとワイヤレス通信研究会」、平成 15 年度から「モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究会」に名称変更）の 3 研究会の共催により、北海道二セコにて最初の DICOMO ワークショップを開催した。

その後、続いて平成 10 年度はワークショップからシンポジウムに変更して鹿児島指宿にて開催、平成 11 年度は南紀白浜にて、平成 12 年度は加賀市山代温泉にて、平成 13 年度は鳴門市にて、平成 14 年度は西伊豆土肥温泉にて、平成 15 年度は阿寒湖にて開催し、そのつど関連する研究会が共催に加わった。

平成 16 年度は、DICOMO2004 シンポジウムとして、「マルチメディア通信と分散処理研究会」、「グループウェアとネットワークサービス研究会」、「モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究会」、「分散システム/インターネット運用技術研究会」、「高度交通システム研究会」、「高品質インターネット研究会」、「コンピュータセキュリティ研究会」、「ユビキタスコンピューティングシステム研究会」の 8 つの研究会が共催し、「放送コンピューティング研究グループ」が協賛して長崎県雲仙にて開催された。

DICOMO2004 では、発表論文が 177 件におよび、日夜活発な発表とディスカッションが交わされた。プログラム委員会では、この中から機関論文誌に推薦する優秀論文を選んだ。その後、平成 17 年 1 月 7 日に開催された本学会の第 302 回論文誌編集委員会において、DICOMO2004 の推薦論文を対象とした特集号を編集・発行することが決定され、この決定に則って、特集号編集委員会が結成された。改めて投稿された論文は、通常の論文誌の論文と同じ手順で査読が行われ、各論文は 2 名の査読者により査読された。この結果、合計 13 件の論文が本特集号の論文として採録となった。

最後に、本特集号を企画する機会をいただいた論文誌編集委員会と、優れた多数の論文投稿をいただいた方々に感謝したい。さらに、多数の論文を短い期間で査読するために多大な尽力をいただいた査読者の方々に感謝したい。本特集号が、情報技術の進歩と情報化社会の発展の関係をさらに深めていくことの貢献につながり、本分野の研究活動の活性化とグローバル化の一助となれば、望外の幸いである。

「マルチメディア，分散，協調とモバイル (DICOMO 2004)」特集号編集委員会

- 編集長

小泉寿男（東京電機大学）

- 編集委員

渥美幸雄（専修大学）、阿倍博信（三菱電機）、岡田謙一（慶応義塾大学）、岡村耕二（九州大学）、河口信夫（名古屋大学）、北口善明（インテック W&G）、爰川知宏（NTT）、斉藤 健（東芝）、佐藤文明（静岡大学）、高橋 修（はこだて未来大学）、高橋和範（日立製作所）、東野輝夫（大阪大学）、藤井誠司（三菱電機）、藤野信次（富士通研究所）、水野忠則（静岡大学）

[†] 東京電機大学理工学部情報システム工学科